

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2025-夏

No.108

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



厳島——社殿 1994年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

日本のユネスコ世界遺産12

縄文杉 (屋久島)



ユネスコ世界遺産シリーズ

撮影・仙波志郎

屋久島は鹿児島県の大隅半島の先端の佐多岬南西約六〇キロの海上に位置する周囲約一三〇キロほどの島。円形に近い五角形をした島の中心部にそり立つ宮之浦岳(標高一九三六メートル)は、九州最高峰の山である。

屋久島の年間降水量は全国一位。また、亜寒帯から亜熱帯までの気候帯が存在する。こうした条件のもと、豊かで美しい自然が残されているゆえ、屋久島は一九九三年に姫路城、法隆寺、白神山地と共に世界遺産に登録された。日本からの世界遺産登録第一陣であった。

その屋久島にあって象徴的な存在は「縄文杉」の名で知られる屋久杉の古木である。樹高約二二メートル、胸高周囲約一六メートル、標高一三二八メートルの地にある。一九六六年の発見当初は樹齢は七〇〇年を超えているのでは……などと騒がれたが、種々の調査研究の結果、今では二一七〇年ほどではないだろうか、と考えられている。中心部は空洞となっている。

屋久島の歴史を見つづけてきた古武士のような風格は、古くから生きてきたという意味で「縄文」の愛称がつけられてもよいのかもしれない。

最高裁判所を語る

私は約三十五年間検事を務めた後約五年間最高裁判所判事を務めた。そこで、本誌には相応しくないかもしれないが、本誌を手取る多くのの方々にとっては全くの別世界・異世界であろう最高裁の一端を語るにより、巻頭言執筆の責めを塞がせていただく。

最高裁とは？と問われたとき、一言で答えるとするれば、「国の三権の一つである司法を担う最高・最終の国家機関」ということになるが、そうした抽象論はさておき、最高裁といえ、多くの方が皇居のお濠沿いに建つ一見城砦のような独特の外観の建物を思い浮かべるかもしれない。かつて三河国田原藩(現・愛知県)の渥美半島にあったの上屋敷があったという約三万六、〇〇〇平方メートルの敷地に建てられた床面積約六万平方メートルの庁舎の外壁は茨城県笠間市産の花崗岩で覆われている。時折テレビ・ニュースなどに登場する大法廷は、面積約五七〇平方メートル、天井の高さ約四〇メートルもの広大な空間である。

その大法廷に居並ぶ裁判官の員数は、天皇が任命する最高裁判官一人と、内閣が任命し、これを天皇が認証する最高裁判事十四人との合計十五人で、その出身内訳は、(高裁・地裁等)裁判官六人、弁護士四人、検事二人、行政官二人、学者一人である。

最高裁判官の定年は法律で七十歳と定められている。これを規定する裁判所法が成立した昭和二十二年当時の男性の平均寿命は約五十歳であった(もともと六十五歳男性の平均余命は約十年)から、

当時としてはかなりの高齢に至るまで裁判官を務めさせるといふ発想であったかと思われる。ちなみに、米国連邦最高裁判事(総数長官以下九人)は終身制で、定年はない。

最高裁には十五人の裁判官全員で構成される一つの大法廷と五人の裁判官で構成される三つの小大法廷がある。大法廷では憲法判断が必要な事件や、小大法廷ではそれ以外の事件が審理される。

最高裁の裁判(判決・決定)はすべて全員(大法廷)もしくは三人以上(小大法廷)の裁判官による合議(審議)によって決せられる。長官を含む裁判官たちは審議室の円卓を囲んでその年齢、着任順等に関係なく全く対等の立場で存分に議論を尽くす。それでも全員の意見の一致がみられないときは過半数の意見(多数意見)がその法廷の意見即ち最高裁の判決や決定となり、少数意見者は判決文の中でその意見(「反対意見」)を表明する。

最高裁時代は忙しかったか、と問われることがある。これには、即座に「然り！猛烈に忙しかった」と答える。私自身について言えば、約五年(正確には五十八ヵ月)間に担当した事件の総数は約一万六、六〇〇件であった。これを月に均すと約二九〇件となる。つまり、土、日、祭日も含め毎日約十件の事件を処理していた計算になる。実際、土、日、祭日もその多くを仕事に費やさざるを得なかった。もちろん個々の事件をみれば、規模の大小・内容の軽重難易があるとはいえ、どの事件も下級審である地裁や高裁の判決・決定に不服が

あり、最高裁にいわば「最後の望み」をかけてきている事件ばかりなのであるから、これらの一件一件に正面から向き合う裁判官の精神的・肉体的負担(重圧)はかなりのものがある。これを激務と言わずして何と言おうか。

このような日々であっても、時には非日常のひとときがあった。その一つが宮中行事への参加で、最高裁判官は、皇居その他で行われる新年の儀、天皇誕生日の祝宴、春秋の園遊会、新嘗祭、講書始歌会などにお招きを受ける。毎回お招きを受けるものもあれば在職期間中に一、二回だけというものもある。いずれも得難い経験であったが、私自身は、これらのうち特に新嘗祭と歌会始に日本文化の奥深い「何か」に触れることができたような深い感銘・感動を覚えた。

最高裁判事を定年退官してから早くも十年が経過した。思えば怒涛のような日々ではあったが、最高裁判例の形成に関与するという、法律家としてこれ以上はない重要かつ誇りある役目を果たしたことに感謝するばかりである。



財団監事
横田 尤孝
(よこた・ゆこう)

筆者略歴

一九六九年中央大学法学部卒。同年司法試験合格。七二年検事任官。法務省保護局長、広島高検検事長、最高検察庁次長検事等を経て二〇〇七年退官。二〇一〇年一月から十四年十月まで最高裁判所判事を務める。現在弁護士(青陵法律事務所)として活躍する一方、更生保護の面にも力をそそいでいる。

さまざまな困難の中にいながらも 文化の復興を願う人がいる

能登半島の被災文化財の救済・支援に取り組む 筆者の脳裏をよぎったあの出来事とは……。

よみがえる東日本大震災の悲劇

東日本大震災から三週間後の、二〇一一年四月四日。私は岩手県陸前高田市にいた。最大十八メートルの津波に襲われたまちでは、人口の約七・二パーセントに相当する一、七五七人が犠牲となった。約八、〇〇〇世帯のうち半数以上の世帯が被災し、ほとんどが全壊したといわれている。

市内の高台にある避難所に支援物資を届けたとき、寒空の中、ずっと丘の下を見つめる女性がいた。その先には、投げ倒されたように横たわる土蔵とがれきの山があった。そして港の倉庫から投げ出されたサンマなどの海産物を求めて海から飛んできたおびただしい数のカモメが舞っていた。

「今日は一段と寒いですね」声をかけると、その女性は下に広がる光景を見ながら話をしてくれた。

「まだね、お父さんが見つかってないの。」



2011年7月17日 陸前高田市広田地区。まだ瓦礫の撤去が進んでいない



陸前高田市にて

悪夢のポル・ポト時代

掲示板の前に立ち尽くしながら、私の意識はカンボジアに飛んでいた。私は、カンボジアアヤラオス、アフガニスタンで図書館事業を行っている日本の国際協力団体の職員として、カンボジア事務所に九年間駐在していたことがある。約三十年続いた内戦で失われた図書復興と、小学校の図書室の整備プロジェクトに従事していた。

一九七〇年に隣国ベトナムでの戦争がカンボジア国内に波及したことを契機に、カンボジアの内戦の歴史が始まった。一九七五年から一九七九年まで続いたクメール・ルージュ政権下では、教育や文化は完全に否定され、図書は「余計な知識を与える産物」として燃やされるか、兵士の巻きたばこの紙など別の用途に使われた。本を生み出していた作家や画家、そして教員の多くは強制労働に従事させられたり、処刑されて命を落とした。私の仕事は、内戦を生き延びた作家を見つけ出して、絵本をつくること

と。そして絵本の物語の元となるカンボジアの民話掘り起こすことだった。私が初めてカンボジアの地を踏んだ一九九七年、クメール・ルージュ政権下で恐怖政治を敷いていたポル・ポトはまだ存命で、政府軍との戦闘が続いていた。

ある日、クメール作家協会の存在を知った。首都プノンペンの寺院内にある一室を借りて活動しているという。訪問すると、迎えてくれたのはポル・ポト時代を生き抜いたクメール作家協会の会長、ユ・ポーさんだった。

カンボジア文学の黄金期と呼ばれた一九六〇年代に小説家として活躍していた彼は、ポル・ポト軍がプノンペンに侵攻した際、泣きながら自分が書いた本を土に埋めたという。身分を隠して強制労働に従事していたが、スパイによって作家であることが発覚してしまう。

ポル・ポト兵に連行され、処刑される前に「作家の命を奪ってやる」と全ての指を折られた。木に縛り付けられて処刑を待つ身となったが、ベトナムのカンボジア侵攻によりポル・ポト兵がその村から撤退し、九死に一生を得た。

手の痛みをこらえながらプノンペンに戻った彼が最初に向かったのは、カンボジア国立図書館だった。書物は焼かれ、図書館で飼われていた家畜の糞尿にまみれた本は見るも無残な状態だった。その中で、内戦前に自分が書いた一冊の本を見つけた。タイトルは「希望の光」。鉛筆を持つことさえままならなくなったが、若手作家の育成に力を注ぐことを決意した。クメール作家協会の事務所には作家を志す若者たちが集まり、ユ・ポー会長が口頭で語る物語を必死に書き写す姿が見られた。

文化は生きる勇気をあたえる

ユ・ポーさんは力強く語ってくれた。「生涯かけて、カンボジアの文学を復興させる」と。そして善と悪、社会でよりよく生きるための指針を示してく



2022年 カンボジア国立図書館のクノット・ヴィボラ館長と



今、ポル・ポト時代を生き抜いたクメール語の本をデータ化する作業が続いている。カンボジア国立図書館にて

れる民話の復興が、カンボジア人の心の復興の土台となると話してくれた。

内戦で焦土と化したカンボジア、津波により壊滅的な被害を受けた東日本大震災後の陸前高田市の風景が重なった。復旧・復興のために衣食住が必要なのは疑う余地もない。でもその中で文化を復旧・復興なしに、自分たちの生活の復興はないと強く思っている人の存在が、確かにあるのだ。

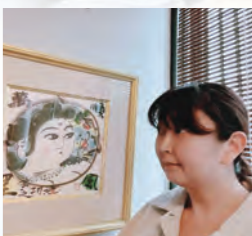
二〇二二年、久しぶりにカンボジアを訪問した。そのときカンボジア国立図書館のクノット・ヴィボラ館長とお会いした。

「ポル・ポト時代を生き抜いたクメール語の本は五百冊。その本のデータ化を急いでいます。文化を守る・残すことは私の使命です」と語ってくれた。

ヴィボラさんは、クメール・ルージュ時代、両親と六人の兄弟姉妹を亡くし、家族で唯一の生存者となった。幸運にも、引き取ってくれた親戚が、我が子のように教育を受ける機会を、提供してくれたそうだ。

「一九八七年に国費留学生として留学したポランドでは、文書資料保全について学び、修士号を取ることができました」

その後、王宮や情報省での勤務を経て、二〇〇二年より現職にある。



文化財サポーターズ事務局員
鎌倉 幸子
(かまくら・ちゆこ)

セージに目が釘付けとなった。

「けんか七夕を復活させるのはオレだ!!」水や電気も不自由している、震災からまだ一ヶ月もたない被災地で、脈々とその土地で続く祭りを求めている住人の叫びが、そこにあった。

「内戦が終わり、一人ぼっちになった自分の将来を考えると、何も見えない暗闇の中に取り残された気持ちになりました。ある日、ふと目にしたカンボジアの遺跡の壁画を見たとき思ったのです。美しい」と。ああ、カンボジアには美しいものがまだ残されているんだ。私は、この美しいものを守り、残していこう。その時、生きる気力が湧き上がってきたのです」

文化を守ろうとヴィボラさんに決意させたのも、文化であった。

内戦、紛争、災害——今まで出会った、さまざまな困難の中にいながらも文化を求める人、残し伝えることを使命とする人たちの思いを胸に、今日も私は能登へ行く。



今も残るカンボジアの地雷原(プレアピヒア州)

筆者略歴

公益社団法人シヤンテイ国際ボランティア会カンボジア事務所図書館事業調整員として五百を超える小学校の図書室整備を行う。東日本大震災発生時には岩手県入りし公共図書館が壊滅的な被害を受けた四自治体で「いわてを走る！移動図書館プロジェクト」を行う。現在は、ソーシャルセクターのファンドレイジング、社会的インパクト評価等の支援を行う。二〇二三年より文化財サポーターズ事務局員。

※けんか七夕：岩手県陸前高田市に伝わる夏の祭り。山車(だし)に若衆が乗りこみ、お囃子で練り歩く。山から切り出した太い藤づるで杉の丸太を山車にくくりつけ、山車と山車をぶつけあう勇壮な祭り。

時を超えて語りかけてくるもの

——昭憲皇太后大礼服プロジェクトの国際的意義と今後

多くの成果を生んだ大礼服プロジェクト。
そこから文化を守り、伝える意味とはなにか、を考える。

中世日本研究所の理念のもとに

明治天皇の皇后・昭憲皇太后が実際にお召しになったと伝えられる、一着の洋装大礼服がある。京都の尼門跡寺院・大聖寺に大切に伝えられてきたこのドレスと向き合うことは、時代の精神や国のあり方、そして文化が持つ力について、私たちに問いかけてくる。

この大礼服の保存修復をめざし、(公財)文化財保護・芸術研究助成財団、明治神宮をはじめとする多くの協力のもと、昭憲皇太后大礼服研究修復元プロジェクトが推進されてきた。その歩みと成果をまとめた書籍が、今夏に刊行される予定である。平成三〇年(二〇一八)より続いてきた保存修復の過程を振り返り、その国際的な意義と未来へのつながりを見つめたものである。本プロジェクト実行委員長として携わった立場から、中世日本研究所所長のモニカ・ペーテがこの書籍をまとめた。ようやくここまで来たという安堵の思いとともに、私たち中世日本研究所としては、これまでの活動、そしてこれからの歩みにも、あらためて思いを馳せている。

大礼服の保存修復活動が生んだ成果

大聖寺に託されたこの大礼服は、皇室の洋装化初期に製作された貴重な衣装であり、それ自体が重要な文化遺産である。保存・修復・再構築の一連の過程は、この大礼服が誕生した歴史的背景をあらためて見直すところから始まった。

昭憲皇太后は、女子教育、社会福祉、殖産興業、さらには職人の尊重など、近代国家の基礎を築くため

している。その意味でも、このプロジェクトは今日的な示唆を与えるものとなった。

守り、伝えるべきことは…

一方で、中世日本研究所では長年にわたり、寺院建築などの文化財保存にも取り組んできた。ニューヨークを拠点とする国際的な建造物文化財保護団体、ワールドモニュメント財団(World Monuments Fund、WMF)との協働関係が築かれ、京都奈良に残る尼門跡寺院の建造物修復事業を20年前より支援いただいている。その後、WMFは日本において町家保存をはじめめとする多くの事業を行い、東日本大震災の際には



昭憲皇太后大礼服トレイン部分

昭憲皇太后大礼服(大聖寺蔵)

本プロジェクトの根底には、中世日本研究所の理念と取り組みがある。創設者であり名誉所長のパーバラ・ルーシュ(コロンビア大学名誉教授)は、「歴史はこれまで、男性による男性のための語りであった。だが、歴史の半分は女性のものであり、いまようやく問い直されている」と語ってきた。当研究所では、歴史、美術、文学、音楽、宗教などの分野を横断し、女性たちが築いてきた文化の再評価を進めてきた。なかでも、皇室とも深く関わる尼門跡寺院において女性たちが紡いできた歴史に光をあてることは、長年にわたるテーマであり、本プロジェクトとも響きあっている。

さらに職人の尊重など、近代国家の基礎を築くため

(公財)文化財保護・芸術研究助成財団とも連携し、災害復興事業にも参画した。WMFのような例に見られるように、人や機関とのつながりは、信頼を土台とした国際協力へと発展していく。人と人との関係が媒介となり、文化財保護のモデルが広がった。そこには、さまざまな枠を超えた協働の可能性が確かに存在する。

建築であれ染織であれ、文化財を守る営みの本質は共通している。職人に託される技術、伝えられる知識、循環する材料——それらが社会と共に、未来へと受け継がれていく。国際機関との協働は、こうした営みをサポートし、世代をつなぎ、地球規模で文化財保護の輪を広げていく可能性を持っている。

昭憲皇太后の大礼服を目の前にしたとき、私たちは、「何を守り、何を未来へ手渡していくべきか」と問いかけられているように感じる。文化とは誰のもので、どのように伝えていくのか。この装いは、時を超えて、私たちに語りかけてくる。

三つの至言

大礼服のプロジェクトを担った中心的な三名の女性たちは、それぞれの想いを次のように語っている。

※ ※ ※

「この大礼服は、時代と文化を超えて語りかけてくる。細部に込められた技術と美意識は、まさに世界的に共有されるべき文化遺産といえるでしょう」

—— シャロン・タケダ(ロサンゼルス、カウンティ美術館主任学芸員)

※ ※ ※

「昭憲皇太后の大礼服は、まさに国際的な宝物と呼ぶにふさわしい存在である。ヨーロッパ諸国の宮廷に伝わる重要なドレスのなかにあっても、この大礼服は誇りをもってその一席を占めるものと



プロジェクトメンバーたち(左より)シャロン・タケダ、クラリッサ・エスグエラ、ジョアナ・マーシュナー、モニカ・ペーテ、周防珠実、今泉宣子、油井薫、桂美千代、ブリタニー・グラッシー。明治神宮にて。令和6年(2024)4月4日

いえる」

—— ジョアナ・マーシュナー(ヒストリック・ロイヤル・パレス主任学芸員)

※ ※ ※

「この大礼服に向き合うことは、日本と世界の歴史を問い直すことでもあった。皇后がこの装いに託した思いは、今もなお、私たちに国際性と文化の力の意味を問いかけている」

—— モニカ・ペーテ(中世日本研究所所長/プロジェクト実行委員長)

現在、進行中の報告

本書の刊行をもって、プロジェクトはひとつの節目を迎える。しかし、研究はなお続いている。文化や文化財を守ることは、文化を支える「土台」そのものを丁寧を守り伝えていくことではないだろうか。今の私たちの力は小さいが、多くの名もなき人々、そして女性たちが時代をつないできたからこそ、今がある。そのことに思いを寄せている。一見、かけ離れた存在に見える「尼門跡寺院」「女性と仏教」「洋装の大礼服」「職人の技術」といったキーワードは、実は美しく重なり合い、連携しているようである。



中世日本研究所
新刊案内サイト

プロジェクトの成果はこの一冊に



中世日本研究所副所長
桂美千代
かづら・みち子

食文化は強力なソフトパワー

——すぐれた食文化は有能な外交官でもある

外交の舞台に饗宴は必要不可欠。

ユネスコ無形文化遺産に登録された和食も

外交の席で真価を発揮している。

そうした食文化のもつ意味を考える……。



（公財）日本交通文化協会
常任理事
西川 恵
（じしかわ・めぐみ）

和食の価値を 世界に知らしめた制度

文化人類学者で食文化の研究家でもある石毛直道氏は一九六〇年代、アフリカなどの現地調査の帰途、米欧の大都市にある数少ない日本料理店で人心地ついたものだ。しかし当時、来客はほとんどが在留邦人で、現地の人はまばらだった。「和食はグローバルな料理にはならないだろうと不覚にも思っていた」と石毛氏は振り返っている。

その後、日本が経済大国となっていくのに比例して、ニューヨーク、ロサンゼルス、パリなど米欧の主要都市で日本料理店が増え始める。七〇年代半ば以降のことだ。生魚を食べるのを習慣としない人々が、次第に口にするようになっていった。

ただ和食の高い付加価値が認められるようになった背景として、外務省の「公邸料理人帯同制度」を忘れる訳にはいかない。大使が任地に赴く時、和食の料理人を連れて行く制度だ。日本大使公邸に招かれる人は、その国の政財官や文化・芸術など各界の有力者、影響力のある人で、彼ら、彼女らを通して和食の美味しさ

が口コミで広がっていった。

特に和食の魅力が語られる時、単なる美味しさだけでなく、季節感を取り入れた彩りある芸術的な盛り付け、ヘルシー、安心安全という点が挙げられる。日本大使公邸に招かれた、特に米欧のその方面に意識の高い知識人、企業家、芸術家などが率先して和食のファンになったのは当然である。公邸料理人を抱えた日本大使公邸が果たした役割が小さくないと思うのもここにある。

私も新聞社のテヘラン、パリ、ローマの特派員時代、日本大使公邸のパーティーや食事に招かれ、隣の席の現地の人が「日本大使公邸の料理は美味しいから招待を断らない」「ここに招かれるのをいつも楽しみにしている」と言うのを聞いた。

世界が知った「和食」の魅力

実は和食が有力なソフトパワーになると日本が気づいたのはそんな前のことではない。大きな節目は和食がユネスコの無形文化遺産に登録された二〇一三年だった。このころ環太平洋パートナーシップ（TPP）

人の長寿の源である和食が日本の美味しい農産品の賜物であることを外国首脳に語った。デンマークの女性首相は出される料理に「美しい」と感嘆し、「娘に見せるから」と一品ごとにスマホで撮っている。

今年三月には天皇陛下は国賓で来日したブラジルのルラ大統領を宮中晩さん会でもてなしたが、四コースのメニューの最初に「和食の前菜」が出された。皇室は明治以来、フランス料理にフランスワインを堅持し、一部識者から「西洋崇拜の鹿鳴館時代の名残」と言われていた。

その皇室が両陛下の意向で、国賓の歓迎宴でまず前菜だけながら和食に踏み切った。午さん会など少数の食事で一昨年から前菜に和食が出されていたが、百人を超える国賓晩さん会では初めてだ。ワインはフランス産だったが、日本ワインが出されるのもそう遠くないだろう。

有能な外交官となった食文化

各国にとって自国の食文化はいまや重要なソフトパ



エリゼ宮の外観。エリゼ宮はフランス大統領の官邸、ここで開かれる饗宴はフランスの食文化の誇りを世界に発信している



エリゼ宮の厨房内のシェフたち（西川撮影）



エリゼ宮の厨房では19世紀初頭のナポレオン時代からの鍋類も使われている（西川撮影）

ワーである。一つは外国人の観光客誘致の重要なコンテンツであること（日本の場合は外国人観光客の来日理由の第一位が食である）。二つ目は、国のよきイメージの発信。三つ目が、農産物輸出に繋がることである。フランスは各国の先頭を切って、フランス料理をユネスコ無形文化遺産に申請し、二〇一〇年に第一号で登録された。これからも分かるように、食文化を最も戦略的に考えてきた国である。そのフランスもおちおちしておれない時代である。

二十世紀初頭までフランス料理は宮廷料理に採用され、その後も各国の外交饗宴の模範として、突出した存在だった。しかしいまでは和食を筆頭に中国料理、タイ料理、インド料理など、各国の料理文化の台頭の中で、ややもすると埋没している感がある。またかつてはバターやクリームを多用したことからヘルシーさに欠け、豪華であつても値段が高いとのイメージも残っている。

フランス政府が「グロ・ド・フランス（フランスの味覚）」というキャンペーンを二〇一五年に始めたのは、以上のような負のイメージを払しょくし、時代に

協定の交渉が進行中で、日本農産物の輸出促進をどう図るかが懸案となっていた。和食の無形文化遺産登録はその手掛かりを与えた。

これを外交の場で取り入れたのが故安倍晋三首相だった。無形文化遺産登録の翌二〇一四年、安倍首相は外国首脳をもてなす首相官邸の夕食会メニューを和食と日本ワインとするよう指示。それまで官邸はフランス料理にフランスワインが相場だったが、これを全面的に変更したのだ。第二次安倍政権発足の二年後だった。

加えて料理の最後のデザートはお菓子ではなく各地の旬の果物とし、その選定に農水省をかませた。これを考えた知恵者は長谷川榮一首相補佐官（当時）。

「外国首脳が『これは美味しい』と言うと影響は大きく、果物はそうしたインパクトがあります」と私に語っている。

夕食会の席にはメニューと一緒に小さな見開きカードが置かれ、写真入りでこの日に出される果物の産地や特徴、そして輸入の際の連絡先に日本貿易振興会（ジェトロ）のメールアドレスと電話番号を記した。安倍氏も食事中の話題によく和食を取り上げ、日本



「駐日フランス大使公邸のテーブルセッティング」（西川撮影）

即した食文化戦略の展開のためだった。その戦略とは、料理を通してフランスの魅力（食材、料理技術の素晴らしさ、地方の豊かさ等）を伝え、「フランスに行ってみよう」と思わせること。また、フランスの食文化のメッセージ性（ヘルシー、懐具合に応じた料理が楽しめる等）を高めることだ。

具体的な取り組みは、毎年三、四月の一夜、世界中でフランス料理を一齐に食べるイベントの展開だ。仏外務省や各国のフランス大使公邸では夕食会を開催し、さらにその国のフランス料理のレストランと提携して、値段を抑えたフランスの地方料理を出してもらった。今年も全世界で行われた。

二十一世紀に入って各国の料理文化の関係性はフラットで、また各国の料理が互いに学び合うことで料理は発展するとの考えが共有されている。今日のフランス料理も和食から多くを学んでいるが、「ヘルシー」もその重要な一つである。

筆者略歴

長崎県出身。毎日新聞でテヘラン、パリ、ローマ特派員を勤める。同社外信部長、専門編集委員を経て、現在は（公財）日本交通文化協会常任理事。

悦びも哀しみも高らかに奏でる楽器と共に

時には誇らしげに高らかに、
時には哀愁に満ちた音を奏でるトランペット。
変幻自在の顔を持つこの楽器の魅力を語る。



はじめに

トランペットという楽器についてみなさまもどこかで一度は目にしたことはあるのではないのでしょうか？

学生時代、吹奏楽部の友達でトランペットを吹いていた子がいた、テーマパークに遊びに行った際に広場の前で演奏していたのを目にしたなど、比較的身近で知名度も高い部類に入ると思います。ではトランペットにはどのようなイメージをお持ちでしょうか？

吹奏楽でも花形と称されるトランペットは明るく高らかに奏でるイメージをお持ちの方も多いのではないのでしょうか。今回は文字だけでもさまざまな表情をもつトランペットの魅力をお伝えできればと思います。

トランペットの歴史

トランペットは現代で使われている形になるまで何度も進化を遂げています。

さまざまな表情を持つ

簡単にはありませんがトランペットの歴史を見てください。注目すべき点は用途です。元々軍事的・儀式的に使われていた楽器から宮廷音楽や教会音楽で用いられ、楽器の可能性が広がったからは幅広く活躍するようになったこの楽器の強み、それこそが音楽表現の多様さだと思えます。

私がトランペットを演奏する上で一番大事にしていることでもありますが、この世界に誰一人として全く同じ顔や体を持った人間が存在しないように、同じ音色を持つ人間はいないと思います。

同じセッティングの楽器を使っている、歯並びや骨格、肺活量、唇の分厚さ、体の使い方などで全く違う音が出ます。

それはトランペットに限らず全ての楽器がそうだと思いますが、これこそが音楽の素晴らしさではないのでしょうか。

一般的なイメージの明るく華やかな音色というのは初期から儀式などで演奏される際や軍事的な号令で用いられるファンファーレに最適な音色感と考えられます。



2023年12月に藝大フィルのアルゼンチン・公演が開かれたコロン劇場にて(中央筆者)



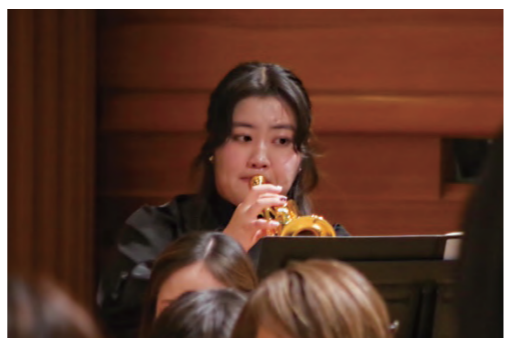
ナチュラルトランペット



ピストントランペット

遡ること紀元前十四世紀ごろの古代エジプトではトランペットのような楽器が使用されており、ツタンカーメンの墓からは銀と青銅で作られたトランペットが発見されています。この時代では主に軍事的・儀式的な用途で使用されていたと考えられています。

バロック・古典派時代(十七〜十八世紀)にはナチュラルトランペットという現代のモダントラン



藝大フィルで演奏中の筆者

前に向いているベルから高らかに鳴り響くファンファーレはみなさんの中でもイメージが付きやすいと思えます。

ここから宮廷音楽や教会音楽に用いられ、弦楽器やオルガンと一緒に演奏するようになり、荘厳かつ優美な響きが求められ、今でもバロック・古典派の音楽では音色や音形なども当時のニュアンスを意識しながら演奏されます。楽器の開発が進み制限なく音が出せるようになった今も、倍音しか演奏できない頃の楽譜を演奏するのは容易ではなく、より当時の演奏技術の難しさを感じる場面が多々あります。どの楽器でもバロック・古典派の音楽というのは礎であり、演奏家人生の中で一番付き合いが長くなる作品が多いと私は考えます。

現代のトランペットの形になってから幅広い場面で用いられ、オーケストラの中では金管楽器の中で最高音域を担当し、音域だけでなくその輝かしい音が音楽のクライマックスで必要不可欠となります。クライマックスといっても持つ感情はさまざま、「悦び」「怒り」「哀しみ」「嘆き」などさまざまです。ただ楽譜に書かれた音を大きく出すだけではクライマックスには不対応であり、曲の持つ感情を表現することはできないのです。もちろんどの楽器にも共通することですが、オーケストラの人数の中でもトランペットというのはたった数人で他を



藝大フィルハーモニア管弦楽団
トランペット奏者
平山あかり
(ひらやま あかり)

ベットの直接のご先祖様にあたる楽器が使用されていました。

この楽器は全長二メートルほどでバルブやキーなどはなく自然倍音[※]でのみ演奏できる楽器でこの時代では宮廷音楽や教会音楽で使われることが多かったのです。

現代でもバロック・古典派時代の作品を演奏する際に使用されることもあり、その際は管に穴が空いており音階が出せるものを使うこともあります。

古典派後期〜ロマン派時代(十八世紀後半〜十九世紀)には現代でも使われているピストンがついたトランペットが普及するようになります。

ピストンがつくことにより音階が演奏できるようになり、この頃にハイドンが作曲した「トランペット協奏曲」はトランペット奏者は必ず通る道と言っても過言ではありません。

このように時代の流れの中で変化してきたトランペットはオーケストラや吹奏楽、クラシックからポップス、ジャズなどさまざまなジャンルの音楽になくはならない存在となりました。

掻き消すほどの威力を持つ楽器であるため、より感情の表現が重要となります。

今後オーケストラの演奏会など聴きに行く機会がありましたら、音が表現している感情まで感じていただけますと大変嬉しく思います。

最後に

今回「絲綢之路」の編集部より執筆のお話をいただいた際、執筆依頼書にあるタイトルはあくまでも仮題なので、実際には自由に変えてもいいとのことでしたが、そのまま使わせていただきました。

というのも私自身トランペットを演奏する、そして音楽を演奏する上で一番重要なのは感情表現だと考えているからです。作曲者の作曲当時の感情や、曲の中の感情の変化をメロディラインや和音進行から汲み取りできるだけ自分の中に取り込み自分のものとして表現する。演奏する空間ごと動かし感情のうごめきをお客様と共に感じていきたい。私はそういう演奏家でありたいと思っています。

筆者略歴

一九九八年生まれ。千葉県習志野市出身。
聖徳大学附属女子高等学校 音楽科 吹奏楽コースを経て、東京藝術大学器楽科トランペット専攻卒業。
九歳よりコルネット、十二歳よりトランペットを始める。
第三十六回日本管打楽器コンクールトランペット部門入選。
第九十回読売新聞社主催新人演奏会に出演。
第九十三回日本音楽コンクールトランペット部門第五位入賞。

これまでにトランペットを小原裕樹、板本浩規、佐藤友紀、菊本和昭の各氏に師事。

※自然倍音とは楽器の発音原理の一つで、管楽器で同じポジション、同じ指使いの連指、同じ管の長さで唇の形や息の力の強さの変更により吹いた時に出る音の変わり方のこと。

定款第4条の定めに従い、次の事業を行いました。
令和6年度事業報告

■文化財保存修復助成事業

国内文化財の保存修復助成事業として、28府県教育委員会等から推薦のあった45件の中から、28件について助成を行いました。【No.15の事業については、助成決定後辞退の申し出がありました。】

(敬称略・以下同)

- (美術工芸)
- ①山形県・林泉寺
林泉寺木造釈迦如来坐像 第二次修理事業 (修理前)
 - (修理後)
 - ②福島県・到岸寺
到岸寺木造大日如来坐像修復事業
 - ③千葉県・真福寺
真福寺絹本着色清涼殿八宗論図保存修理事業



東北古典彫刻修復研究所 提供

- ④三重県・西蓮寺
西蓮寺木造聖観音菩薩立像保存修理事業
- ⑤京都府・智源寺
智源寺紙本着色草花園保存修理事業
- ⑥大阪府・佛日寺
佛日寺竹巖院尊像保存修理事業
- ⑦奈良県・圓成寺
圓成寺木造聖徳太子立像(南無仏太子)保存修理事業
- ⑧愛媛県・太山寺
太山寺木造五智如来坐像保存修理事業 (修理前)
- (修理後)
- ⑨宮城県・賀茂神社
賀茂神社本殿保存修理事業
- ⑩秋田県・八幡神社
八幡神社本殿修繕事業
- ⑪茨城県・木村 陸
木村家住宅保存修理事業
- ⑫埼玉県・立野天満宮
立野天満宮本殿保存修理事業



- ⑬神奈川県・遍照院
遍照院薬師堂保存修理事業
- ⑭新潟県・花蔵院
椎谷観音堂保存修理事業
- ⑮静岡県・旧妙音庵薬師堂保存会
旧妙音庵薬師堂屋根葺替保存修理事業
- ⑯兵庫県・狭宮神社
狭宮神社本殿保存修理事業 (修理後)
- (修理前)
- ⑰和歌山県・西田中神社
西田中神社羊宮神社本殿、八幡神社本殿保存修理事業
- ⑱山口県・極楽寺
極楽寺薬師堂保存修理事業
- ⑳宮崎県・小川平公民館下小原分館
日之影町釈迦堂保存修理事業
- ㉑鹿児島県・東郷 実昌
旧東郷医院保存修理事業
- (有形民俗)
- ㉒富山県・八尾町今町曳山保存会
八尾町祭祀曳山格納庫保存修理事業
- ㉓石川県・西町曳山行事保存会
西町曳山上演修理事業
- ㉔石川県・大文字町曳山行事保存会
大文字町曳山展示修理事業
- ㉕長野県・兎川寺町
里山辺お船祭りのお船保存修理事業



(修理前)

(修理後)

- ⑳岐阜県・東山白山神社
高山祭屋台(東山白山神社神楽台)保存修理事業 (修理前)
- (修理後)
- ㉑滋賀県・本町自治会
日野曳山祭曳山保存修理事業
- ㉒長崎県・諏訪通り町会
諏訪町傘鉦垂長崎市文化財等保存整備事業
- 芸術研究等助成事業
文化財の保存修復及び芸術に関する調査研究、成果の発表、国際交流事業の実施等



(修理後)

に対する助成事業として申請のあった32件の中から、19件の事業に助成を行いました。

(研究・事業)

- ①第4回 東京藝術大学&清華大学美術学院 日中フアイバーアート交流展2024 (東京藝術大学美術学部工芸科 准教授 山田菜々子)
- ②国宝「信貴山縁起絵巻」現状模写研究(東京藝術大学美術学部 教授 吉村誠司)
- ③建築学生ワークショップ「醍醐寺2024 (特非) アートアンドアーキテクトフェスタ 代表理事 平沼孝啓)
- ④野田暉行 追悼演奏会(東京藝術大学音楽学部作曲科 教授 安良岡章夫)
- ⑤山田流箏曲の楽譜の出版(東京藝術大学音楽学部邦楽科 教授 萩岡松韻)
- ⑥「音楽でつながる」の刊行(東京藝術大学音楽学部楽理科 教授 塚原康子)
- ⑦カンマームジック@アルティV.O.L.9 (東京藝術大学音楽学部器楽科 教授 河野文昭)
- ⑧アパラス第11回演奏会(第3回「松村賞」受賞作品、会員作品と松村禎三作品による) (国立音楽大学 教授 菊池幸夫)
- ⑨安国寺所蔵木村徳心筆「涅槃図」と木村貞綱筆「八相図」の絵画材料及び技法に関する比較研究(金沢美術工芸大学 教授 荒木恵信)
- ⑩三宅島における茅葺き文化の継承(筑波大学芸術系 教授 黒田乃生)
- ⑪硝酸セルロース映画フィルムの安全かつ現実的な保存方法の確立に向けた基礎的研究(奈良国立博物館 上席研究員 荒木臣紀)
- ⑫文化財保存修復専門家育成のためのインターン事業(特非)文化財保存支援機構理事 増田勝彦)
- ⑬中国古代編鐘の発音・調音に関する研究

(東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学研究領域 博士後期課程 長澤文彩)

- ⑭ミュージック・フロム・ジャパン創立50周年記念音楽祭(エリザベト音楽大学 准教授 川上 統)
- ⑮函館・橋谷家文書および所蔵品調査(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授 田代亜紀子)
- ⑯池井昌樹と谷内六郎の世界展(香川デジタルファクトリー事業協同組合 理事 今井龍二)
- ⑰常磐津節のweb教材用録画プロジェクト(東京藝術大学未来創造継承センター 非常勤講師 松村智郁子)
- (外国人研究者招致)
- ⑱Gwendol Furr (ゲノラ・フェリック) (国立美術館国立アーチリサーチセンター 主任研究員 鳥海秀実)
- (国際会議出席)
- ⑲36th CCHA World Congress - Lyon 2024 (第36回CCHA世界会議 リヨン2024) (有 山領絵画修復工房 紙本修復家 川村朋子)
- 国際協力事業
文化財の保護及び芸術文化に関する国際的な協力・交流、人材養成事業など申請のあった4件の事業の中から、4件の事業に対して助成を行いました。
- ①敦煌研究院より研究員招致(王 卓氏) (敦煌研究院 院長 蘇 伯民)
- ②キルギス共和国アク・ベシム遺跡出土品の保存修復と科学的調査に関わる人材育成と技術移転(公財)山梨文化財研究所 研究員 三浦麻衣子)
- ③文化財建築保護に関する日本・イタリア・フランス国際共同研究(名古屋市立大学院芸術工学研究科 教授 青木孝義)
- ④トルコ共和国古代遺跡出土遺物、遺構の

保存、修復と若手専門家の養成(公財)中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所 所長 大村幸弘)

■文化財サポーターズ事業

- 文化庁と連携した文化財サポーターズ事業「令和6年能登半島地震文化財復興緊急支援事業」として申請のあった4件の事業の中から、4件の事業に対して助成を行いました。
- ①富山県・特定非営利活動法人アポロン
旧田中家住宅(国登録有形文化財)
 - ②石川県・白山神社
白山神社(国指定重要文化財)
 - ③石川県・黒丸芳長
黒丸家住宅(国指定重要文化財)
 - ④石川県・中谷直之
中谷家住宅(国指定重要文化財)
 - 重点助成事業
①昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業
大聖寺門跡所蔵の昭憲皇太后大礼服は、明治時代の西欧化、社会変化、殖産興業などを表象する大礼服であり、現存する最古の昭憲皇太后所用の第一礼装です。貴重な歴史資料であり、近代日本の象徴的遺産として文化的価値が高いものになります。
経年劣化著しい大礼服の修復、欠失している部分(スカート)の復元のため、令和元年度から令和7年度まで募金を行い昭憲皇太后大礼服の研究・修復・復元事業を実施しております。
令和6年度は7年計画の6年目であり、次の助成を行いました。
 - ①昭憲皇太后大礼服研究修復元プロジェクト実行委員会
昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業
・明治神宮にて国際シンポジウム開催
・明治神宮ミュージアムにて昭憲皇太



(修理前)

(修理後)



(国際シンポジウム)

(展示会の様子)

- ②その他(東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業)
例年実施の文化財保存修復助成申請の中には東日本大震災被災文化財の保存修復事業の案件が未だに含まれており、東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業の募金及び残予算もあることから、次のとおり助成を行いました。
- (建造物)
- ①福島県・陽林寺
陽林寺衆寮改修事業 (修理前)

(3)その他(熊本地震被災文化財復旧支援事業)
例年実施の文化財保存修復助成申請の中には熊本地震被災文化財の保存修復事業の案件が未だに含まれており、熊本地震被災文化財復旧支援事業の募金及び残予算もあることから、次のとおり助成を行いました。

(建造物)

①熊本県・正教寺

正教寺樓門保存修理事業

■シンポジウム等の開催事業、その他普及広報活動

文化財の保護及び芸術振興に関する啓蒙活動、国際交流、広報活動として広報誌の発行、文化交流フォーラムの開催、その他普及広報活動に関連し次の事業を行いました。

①広報誌「絲綢之路」の発行

第105号(二〇二四 夏)
令和6年6月25日発行
第106号(二〇二四 秋)
令和6年10月28日発行
第107号(二〇二五 新春)
令和7年1月25日発行
発行部数:各2,000部

配布先:都道府県教育委員会、美術館・博物館、文化財研究機関、芸術系大学、新聞社、支援者、賛助会員、理事・評議員、その他関係者に配布

②日中韓文化交流フォーラムの開催

期間:令和6年9月25日(水)～9月26日(木)
会場:中国(江西省撫州市)
行事:第17回日中韓文化交流フォーラム
テーマ:「世界を照らすアジアの演劇」

(賛助会員)

当財団では、財団の活動趣旨にご理解ご賛同いただき、恒常的にご支援いただけた法人、個人の賛助会員を募集しています。

法人正会員 年額(1口) 50万円
個人正会員 年額(1口) 1万円
維持会員 年額(1口) 10万円

(ご寄付)

賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けております。ご寄付の方法は様々な方法がありますので、左記のとおりご紹介いたします。詳細は当財団事務局までお問い合わせ下さい。(電話:〇三・五六八五・二二二一)

(1)銀行振込又は郵便振替

銀行振込や郵便振替でもご寄付を受け付けております。

(銀行振込)

〇三井住友銀行 上野支店
普通 6615500
〇みずほ銀行 上野支店
普通 4478576
〇三菱UFJ銀行 上野中央支店
普通 0796384

(郵便振替)

00160・5・12319
※口座名義は、銀行、郵便局、いずれも(公財)文化財保護・芸術研究助成財団
※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、財団事務局に事前にご連絡をいただくと幸いです。

(2)インターネットによるご寄付

次の手順によりインターネットから、クレジットカード又はVポイントによる(ご寄付(募金))を受け付けています。
←〇「YAHOO! JAPAN ネット募金」
←〇「文化・スポーツ」
←〇「文化財保存修復支援募金」
←〇「クレジットカード」又は「Vポイント」を選択



日・中・韓の代表団の方々

③第74回社会を明るくする運動「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」に協力

主催:社会を明るくする運動(中央推進委員会)ほか

④講演会・シンポジウム・展示会等の後援

(ア)文化遺産 保存・継承 第18回読売あをによし賞を後援
主催:読売新聞社
後援:文化庁、大阪府教育委員会、独立行政法人国立文化財機構ほか
(イ)第11回長野アール・パレ展を後援
会場:長野県立美術館
主催:アール・パレ実行委員会
後援:ICOM(国際博物館会議)日本委員会、長野市教育委員会ほか
(ウ)「妙高芸術祭四季彩芸術展」を後援
会場:妙高高原メッセ
主催:妙高市・妙高市教育委員会
後援:新潟県上越地域振興局、「社明運動」新潟県推進委員会ほか
(エ)文化財保護・救済活動チャリティー企画26周年「文化人・芸能人の多才な美術展」2024(Entertainment Art Exhibition)を後援
会場:品川区O美術館ほか
主催:特定非営利活動法人「日本国際文化遺産協会」、同実行委員会
後援:文化庁、インド大使館、(公財)文化

← 募 金

(3)遺贈

「遺贈」によるご寄付・相続財産のご寄付を承っております。

「遺贈」とは、遺言により、ご自分の財産を特定の人や団体に分け与えることをいいます。受取人として、法定相続ではなく遺言書により、一部又はすべての財産の受取人として、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団をご指定いただくことができます。財団に寄付をされた場合、相続税の控除を受けることができます。
遺贈寄付相談窓口のお知らせ
当財団はREADYFOR株式会社と連携し、遺贈によるご寄付や相続財産のご寄付に関するご相談を承っております。
※レディーフォー遺贈寄付サポート窓口
(https://izoreadyfor.jp/)は、遺贈に関するご相談を受けられる窓口で、何度でも無料でご相談できます。

(4)商品券・図書券等による寄付

ご家庭のタンスや事務室の机の中等で眠っている、未使用の商品券、図書券、切手、収入印紙、ビール券、お米券、旅行券、Q.U.Oカード、テレホンカード、書き損じ葉書等もご寄付として受け入れております。お送りいただく場合は、当財団事務局宛てに封書にてご郵送下さい。

●税法上の優遇措置

当財団は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、賛助会費・寄付金(募金)には税法上の優遇措置が適用され、所得税、法人税等の控除が受けられます。詳しくは当財団ホームページでご確認いた

財建造物保存協会、(公社)日本ユネスコ協会連盟ほか
(オ)「令和6年度文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を後援
主催:特定非営利活動法人文化財保存支援機構
後援:独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館、(公財)日本博物館協会、(一社)文化財保存修復学会ほか

令和6年度ご支援いただきました賛助会員の皆様

法人正会員(十四社) 【五十音順】
朝日生命保険相互会社
株式会社 NKB
花王 株式会社
鹿島建設 株式会社
株式会社 講談社
株式会社 集英社
全日本空輸 株式会社
株式会社 高島屋
株式会社 電通
野村ホールディングス 株式会社
東日本遊技機商業協同組合
三井住友海上火災保険 株式会社
株式会社 三井住友銀行
株式会社 ミロク情報サービス
法人維持会員(十二社) 【五十音順】
大塚ホールディングス 株式会社
公益財団法人 鹿島美術財団
洲本観光 株式会社
株式会社 精養軒
大和建設 株式会社
東京ガス 株式会社
株式会社 東京ドーム
株式会社 東京マルイ美術
株式会社 なとり

だくか事務局までお問い合わせください。

☆☆☆☆

☆財団案内及び賛助会員入会申込書のご請求、その他ご質問等お問い合わせは財団事務局までご連絡をお願いいたします。

計 報

当財団評議員であります浦井正明様(寛永寺貫首)が、令和七年三月六日にご逝去されました。永年にわたり当財団の運営にご指導、ご尽力を賜りましたことに深く感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今号の表紙

平山郁夫 殿島——社殿 1994年

殿島神社は日本三景のひとつ、安芸の宮島に鎮座する社。平安時代の末期に平清盛によって現在のような姿に整えられていったとのこと。寝殿造の様式を取り入れ、潮が満ちれば海に浮かぶ神社と化す発想は世界にも類を見ない壮大なものと言える。



殿島——社殿 1994年
三景のひとつ、安芸の宮島に鎮座する社。平安時代の末期に平清盛によって現在のような姿に整えられていったとのこと。寝殿造の様式を取り入れ、潮が満ちれば海に浮かぶ神社と化す発想は世界にも類を見ない壮大なものと言える。

殿島神社は一九九六年に世界文化遺産に登録されている。また、平家一門がその繁栄を願って奉納した写経はその美しい装飾と相まって平家納経として名高い。

平山画伯は殿島神社に画題を求め、多くの作品を残している。瀬戸内の海で生まれ育った画伯にとって、この神社には格別の想いを抱いていたことだろう。神々を敬い、海という大自然との調和の中に今日まで、この世界遺産を守り続けた人々の「こころ」を高く評価されていた。

更生保護法人 日本更生保護協会
浜名梱包輸送 株式会社
株式会社 平成建設

賛助会員ご入会とご寄付をいただきました皆様

●令和7年1月1日から 5月31日まで

敬称略/順不同

☆賛助会員
○個人(正)会員

☆寄付金
○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付
ヤフー ネット募金(203名様)
共同印刷(株)
岩国郷土史会
清見寺

○昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業に対する寄付
(※)大聖寺

○平安神宮百三十年社殿等保存修復事業に対する寄付
平安神宮崇敬会

○能登半島地震文化財復興緊急支援事業に対する寄付
クラウドファンディング108名分
(学)二本松学院

お願い

◎賛助会員ご入会並びにご寄付のお願い

画伯は殿島神社を日本が世界に誇る様式美の極致である、と語っている。

編集後記

この季節、上野の山は新緑があたりを支配し、晴れた日は大変気持ちがいいものです。樹液に富んだ若葉には躍動感あふれる生命力を覚えます。来年もまたこの若葉の下を歩けるといいな、と思ったりもします。

本号の進行中、おふたりの先生の死に接しました。おひとりは当財団の評議員で寛永寺貫首の浦井正明師、もうおひとは長年トルコのカマン・カレホユック遺跡の発掘調査にたずさわり、数々の業績をあげられた大村幸弘先生です。当財団もずっと御支援していたのでその死は誠に残念です。おふたりとも突然の死だったので驚きました。心より御冥福をお祈りいたします。

唐詩選に唐代の詩人劉希夷(六五―八〇)の「白頭を悲しむ翁に代わりて」という詩が収録されています。その一節にこんなくだりがあります。

自然の営みは毎年変わらずとも人の世は無常です。まもなく猛暑が予想される夏です。みなさま重々おからだ御自愛ください。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)
二〇二五年 夏号 通巻第一〇八号

★令和7年六月二十五日発行
★編集発行/公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 事務局◎
〒110-0007 東京都台東区上野公園十二一五〇
電話(〇三)五六八五―二三一一
FAX(〇三)五六八五―五二二五
URL:https://www.bunkazai.or.jp/
E-mail:jimukyoku@bunkazai.or.jp
★印刷 エイ・エス・アドバンス株式会社